

2025 年度シラバス

科目分類/Subject Categories			
学部等/Faculty	/工芸科学部/工芸科学部 : /School of Science and Technology/School of Science and Technology	今年度開講/Availability	/有/有 : /Available/Available
学域等/Field	/全学共通科目/全学共通科目 : /Program-wide Subjects/Program-wide Subjects	年次/Year	/1 年次/1 年次 : /1st Year/1st Year
課程等/Program	/基盤教養科目/人間教養科目(2023 年度以前入学者) : /Liberal Arts/Liberal Arts(Course for students enrolled before 2023 academic year)	学期/Semester	/後学期/後学期 : /Second term/Second term
分類/Category	//基本教養 : //Foundations in Liberal Arts	曜日時限/Day & Period	/月 4 : /Mon.4

科目情報/Course Information				
時間割番号 /Timetable Number	10121407			
科目番号 /Course Number	10160286			
単位数/Credits	2			
授業形態 /Course Type	講義 : Lecture			
クラス/Class				
授業科目名 /Course Title	現代正義論（リベラルアーツ・ゼミナール） : Contemporary Theories of Justice (Liberal Arts Seminar)			
担当教員名 / Instructor(s)	/(瀬戸山 晃一)/他 : SETOYAMA Koichi/etc.			
その他/Other	インターンシップ実施科目 Internship	国際科学技術コース提供科目 IGP	PBL 実施科目 Project Based Learning	DX 活用科目 ICT Usage in Learning
			○	
	実務経験のある教員による科目 Practical Teacher			
科目ナンバリング /Numbering Code	B_PS1220			

授業の目的・概要 Objectives and Outline of the Course	
日	本科目は、看護学科および京都府立大学並びに京都工芸繊維大学との三大学教養教育共同化科目として開講されるリベラルアーツ・ゼミナールである。本ゼミナールの目的は、現代社会の実際の教育格差、医療格差、環境問題などの具体的な問題や事例を題材に、その政策の是非をめぐって対立する意見や議論が、いかなる主義や理論に基づいて主張が展開されているのかを理解するとともに、それらの知的洞察に基づいて、処方箋（制度改革や政策変更）のあり方を主体的に考えることができる知的能力を受講生が修得することにある。教育方針としては、受講生のアクティブラーニングを促進し、いろいろな問題考察に役立つ「生きた教養」リベラルアーツの涵養を目指す。 現代社会では、法により一定の自由や権利が保障されているが、現実には様々な不平等や格差、差別や不正義がみられる。それらをどの程度どのような法政治制度的な手段や方法で是正し、平等を実現すべきなのか？現実には自由を追求すると格差が広がっていくことが少なくない。また「平等」といってもスタートの平等なのかゴールの平等なのか、あるいは機会の平等や運の平等など、何の平等を追求するべきかによって意見は異なり、政策の是非に対する判断も変わる。 詳細は、以下京都府立医科大学のシラバスを参照のこと。 https://www.kpu-m.ac.jp/doc/department/igakuka/syllabus/index.html
英	

学習の到達目標 Learning Objectives	
日	正義論を展開する対立する各主義や理論アプローチが拠りどころにする世界観や事実認識、そして理論前提および知的死角（ブ

英	ラインドスポット）について理解し、その知識をもとに議論できる。 それぞれの理論の立場が、何の平等を重視し、何の不平等（格差）を軽視あるいは無視する傾向にあるのかを理解し指摘できる。 上記の知的営みを通して、受講生が自らの考え（価値観）を相対化するとともに、自省的に見つめなおし、異なる価値観を有する他者に対する寛容な知的態度の養成し、及びそれを日常生活や将来のキャリア実践に活用できる。 特定の道徳を啓蒙し教育するのとは正反対に、現在流布している様々な道徳や主義を批判的に考察し、自らの意見を論理的に表明できる。 各理論や主義に基づいて具体的な問題を分析しその結果を説明できる。 到達目標については、以下参照のこと。具体的な到達目標は、上記 1～5 を設定している。 本ゼミナールでは、様々な理論や主義を、いわば手術台に乗せて解剖し、その中身、特に様々な理論間の緊張関係や対立とその論拠を可視化する。そして、受講生はそれらの考察過程を 過程を通して、自由の意義とその限界、道徳（哲学）理論間や自由と平等をめぐる対立構造などの動的な相互関係を捉えることで、多様な価値観を有する他者への寛容な態度や、マイノリティーである当事者の声に耳を傾け、気持ちを推論する能力を受講生が養うことを教育の最終的な到達目標とする。

学習目標の達成度の評価基準 / Fulfillment of Course Goals (JABEE 関連科目のみ)	
日	
英	

授業計画項目 Course Plan			
No.		項目 Topics	内容 Content
1	日	第 1 回	授業目的とガイダンス（オンデマンド）（瀬戸山・立場）
	英		
2	日	第 2 回	能力主義・入試選抜の公平性と現代正義論の様々な主義（瀬戸山）
	英		
3	日	第 3 回	授業と Moodle で指示（ビデオ視聴）（瀬戸山）
	英		
4	日	第 4 回	スポーツ競技の公平性とドーピングの是非（エンハンスメント）（瀬戸山）
	英		
5	日	第 5 回	グローバルな貧困への対応（立場）
	英		
6	日	第 6 回	家族による教育の是非（立場）
	英		
7	日	第 7 回	医療資源分配の基準としての QALY の長所と短所（立場）
	英		
8	日	第 8 回	食物の消費によって引き起こされる不正義（オンデマンド）（立場）
	英		
9	日	第 9 回	死刑制度の是非（立場）
	英		
10	日	第 10 回	「正しい戦争」という考え方（立場）
	英		
11	日	第 11 回	人口抑制の是非（立場）
	英		
12	日	第 12 回	気候変動の問題と世代間正義の考え方（立場）
	英		
13	日	第 13 回	振り返りとプレゼンテーションの準備（瀬戸山）
	英		
14	日	第 14 回	グループプレゼンテーションの説明（瀬戸山）
	英		
15	日	第 15 回	グループプレゼンテーション（瀬戸山/立場）
	英		

履修条件 Prerequisite(s)

日	
英	

授業時間外学習（予習・復習等）

Required study time, Preparation and review

日	授業時間外での学習時間は 30 分～60 分程度
英	

教科書／参考書 Textbooks/Reference Books

日	【必携教科書】 宇佐美誠他『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社 2019 年、3,080 円（税込）、ISBN978-4-589-04028-2）。 【参考書】 マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録上・下』（小林正弥・杉田晶子[訳]、早川文庫 2012 年、ISBN978-4-505-03789-2） マイケル・サンデル『実力も運のうち 能力主義は正義か?』（早川書房 2021 年） 林芳紀・伊吹友秀『マンガで学ぶスポーツ倫理』（化学同人 2021 年、ISBN9784
英	

成績評価の方法及び基準 Grading Policy

日	成績評価は、本講義はゼミナールであり、筆記試験は実施せず、立場担当 40％と瀬戸山担当 40％並びに最終グループプレゼンテーション 20％の評価割合により行う。 立場担当回に関しては、授業後半の質疑・討論セッションでの発言に基づいて平常点評価を行い、質疑・討論における各履修者の発言を、質・量の両面から厳密に評価して記録し、 授業参加点を算出する。そのため、欠席・遅刻・早退をすると、その分だけ評価の機会を失う（授業参加点が得られない）ので注意されたい。 瀬戸山担当回に関しては、グループ・
英	

留意事項等 Point to consider

日	【オフィスアワー】 授業に関する質問などは、毎回提出するフィードバック・コメントに書くこと。また個別に授業関連の指導を受けたい場合には、連絡先メールアドレス等を授業の際に周知するので、 教員のメールアドレスにアポイントの予約メールを送り日時を調整の上で個別に対応する。 【学生へのメッセージ】 本講義は現代社会における様々な社会問題を主題にしたディスカッションを中心とする授業であるため、受講生の積極的な発言・学習を大いに期待する。一方で、医療や教育、 家族などセンシティブな問題を扱う回もあるので、議論の際の心理的安全性の確保にはくれぐれも注意されたい。 具体的な問題に対して、より高次の原理や概念を用いてアプローチする能力は、実社会でも必ず役にたつスキルである。加えてこれからの社会を担う受講生には、 授業内に限らず社会問題に取り組む知的的好奇心や誠実さを身につけてほしい。
英	